



きくちの横顔

ファシリテーター

今年度は拓殖大学オープンカレッジ『国際開発教育ファシリテーター養成コース』を受講し、週に一度の大学生として勉学に励んでいます。

ファシリテーターとは、簡単に言ってしまうと、会議の目的を達成するために参加者に働きかけをする支援者であり、国際開発の現場や教育分野で注目を浴びています。もともとファシリテート facilitate には「容易にする、促進する、手助けする」といった意味があります。

「シンク・グローバリー アクト・ローカリー」という言葉があります。「グローバルな視点にたつて身近なことから行動しよう」という意味ですが、よりよい区政のために常に学び続けていきたいと思えます。

このたび来期募集パンフレットに現在の受講生を代表し、「受講生インタビュー」の特集に掲載していただくことが決まりました。内容は以下のとおりです。



■受講風景



プロフィール

都内公立中学校の教員を経て、統一地方選挙に当選。現在、荒川区議会議員として活躍している。

Q1 本コースを受講したきっかけを教えてください。

A1 海外日本人学校の教員を目指していた私は2010年夏、JICA 教師海外研修へ参加。国内研修で本コーススタッフの石川先生より開発教育、ファシリテーション、ワークショップなどについて学び、教育はもちろん、様々な分野におけるファシリテーターの重要性を感じ受講を決めました。

Q2 議員として活動する菊地さん、学んだスキルを政治の現場でどのように活かしていこうと思えますか。

A2 地方議員の役割を『区民と区政のパイプライン』であると考えています。地域住民や企業、NPO などと行政が力を合せ、地域の課題解決に取り組む際、その合意形成を図るファシリテーターとして力を発揮できればと思います。

Q3 本コースならではの魅力を教えてください。

A3 教室でワークショップが始まるとそこは工房となり、我々は職人となります。それぞれが持てる知識を持ち寄り、議論を交わし、作品を完成させる。年の差や職業は関係ありません。一言で言えば切磋琢磨といった所でしょうか。

Q4 今後の展望は？

A4 教育分野におけるファシリテーターの役割は子ども達の学習に対する興味・関心・意欲を引き出すこと。多くの教員がファシリテーション能力を身に付け、創造的な学習プロセスを進められるよう教育改革を推進したいです。

また、地域の皆様とディスカッションを通して、議会を身近に感じてもらいたいと思えます。

『きくち秀信パイプラインニュース 2012年 新春号』をご清覧いただき、大変にありがとうございます。地域への全戸ポストイングも本号を含め3回目となりました。

今回の紙面は皆様より貴重なご意見をいただき、高齢者の方にも読んでいただきやすいよう、文字の大きさや字体、色使いなど工夫を加えています。

これからもご意見や感想などをお寄せいただければ幸いです。さらに内容の充実に努めてまいります。

きくち秀信パイプラインニュース

2012年新春号

◆発行/きくち秀信 励ます会 平成24年1月発行 〒116-8501 東京都荒川区荒川2-2-3 TEL-03-3802-3111



ごあいさつ

1000年に一度の国難ともいわれる震災に直面した昨年を改めて思い返し、被災された多くの方々に心よりお見舞い申し上げます。新たな年の幕開けにあたり、区政報告をさせていただきます。

私に寄せられた区民の皆様からの声を元として、平成23年第3回定例会の決算特別委員会では、公明党荒川区議会議員団を代表し、締めくくり総括質疑を行い、続く第4回定例会の本会議では、一般質問に立たせていただきました。

これらの質問に至るまでの間、行政側との意見交換を何度も重ね、概ね前向きな答弁をいただくことができ、区民と区政のパイプラインとしての役割を果たせたものと思っております。

本年も区民の皆様のご期待にお応えすべく、全力を尽くしてまいります。ご支援賜りますようよろしくお願いいたします。



許しません 不法投棄

歩道上に不法投棄されていた30台以上の自転車を全て撤去していただくことが出来ました。これには地域の皆様、商店街の方も大喜びです。

この場所は過去にも同じようなことが起こっている場所であり、近くのお花屋さんのご主人は「朝、店を開けると捨てられている自転車が前日より5台ほど増えていたことがあった」と言っておられました。

撤去後は自転車の不法投棄を防止するボードを設置し、尾久警察の見回り強化も実施中です。おかげで歩道上に不法投棄される自転車は無く、一時的な駐輪も減っています。

通りすがりの主婦の方から感謝のお言葉をいただき、反響も日に日に広がっていることを感じました。

